

下野新聞

life

くらし



「最終章」自分らしく

在宅医療の意義を議論

在宅ケアネット 栃木 シンポ

県内の医療・介護職らによる「在宅ケアネットワーク栃木」の総会・シンポジウムが11日、下野市の自治医大で開かれ、在宅医、看護師ばかりでなく、歯科医師、薬剤師ら多職種が連携した在宅医療の姿、意義が議論された。テーマは「いのちに寄り添う在宅医療」。在宅緩和ケアの医師は、病気の末期に本人の望まない治療が続けられるケースを踏まえ「自分らしく生き抜くため人生の最終章は自ら決めることが大切」と基調講演した。

(山崎一洋、斎藤美和子)

約500人が来場し、即(つ)ち歯科医師は、口の中 計画を立て、抜歯や清た総会・シンポジウムの炎症で食事を取れな掃などを行ったといでは、関係職種のパネ 性(せい)のケースを例示し「口から食べられるリストが「自分にでき た。自宅での炎症治療 ようになり、生活の質を清潔に保つため管理 と説明。「歯科訪問は

歯の治療に限らず、食 菌(きん)の侵入を防ぐため、食 べたり飲み込むリハビリ など、口にかかわる あらゆる問題に対応す ると捉え直すべきだ」と指摘した。

歯の治療に限らず、食 人(ひと)ホームひまわりの佐 べたり飲み込むリハビ 々(き)木(き)剛(剛)総合施設長は、 リなど、口にかかわる 入(い)所(所)者のその人らしさ を守る「おむつゼロ」 「胃(い)ろうなどからの) 常(じょう)食(食)化(化)」の取り組みを 披露した。

茨城県内で薬局グル ープを展開する薬剤師 根本(もと)ひろ美(美)代表は、薬 剤(じ)師(師)による訪問指導の メリットを強調。患者 の服用負担を軽くする 薬(くすり)の「一包(ひと)化(化)」や、食 事(じ)の実態に合わせた処 方(はつ)の提案、針(はり)やチュ ー(チュー)ブ(ブ)といった医療材料の 提供(ていきょう)などを紹介した。 医師(い)師(し)ら関係多職種の人 が情報(じょうほう)を共有(きょうゆう)できるよ う患者(じやうじゃ)に関する報告書 を工夫(くわふう)したという。

栃木市の特別養護老 動(どう)を紹介した。 病(びょう)気(気)があっても高齢 者(しや)が住(す)み慣(な)れた地域(ちいき)で 暮(く)らすホームホスピス 「あかさんの家」を宮 崎(みやざき)市内(しん)で運営(えんぎん)する市原 美(み)穂(ほ)理事長(りじざん)は、その活



医療、介護の専門職らが在宅ケアの充実を目指して意見を交換したシンポジウム

がん末期の高齢者ら の苦痛(くるしみ)を和(な)らげる在宅 医療(いりょう)に取り組(く)む群馬(ぐんま)県 高(たか)崎(さき)市の「緩和(かんわ)ケア診 療(りょう)所(じょ)いっば」の萬(ま)田(た) 緑(りく)平(へい)医師(いし)が「最(さい)期(き)ま まで目(め)一杯(いっぱい)生(な)きる」と題 (だい)して基(き)調(てう)講(こう)演(えん)した。

萬田医師 基調講演

本人満足なら、家族も満足



「最期まで目一杯生きる」と題して基調講演した萬田緑平医師

がん末期の高齢男性 が「家に帰りたい」と 望(のぞ)むのに、家族(かぞ)らが「心 減(へ)ると、男性(なんせい)は晩(ばん)酌(しやく) め(め)から諦(あきら)めず、本人(ほんにん)の 望(のぞ)みを現(あらわ)し母(はは)に感謝(かんしゃ) のメ(め)ール(る)を残(のこ)した20代 男性(なんせい)の姿(すがた)も紹介(せうかい)。こ(こ)う した最(さい)終(しゆう)章(しょう)を支(し)援(えん)でき る在宅(ざい)緩(かん)和(わ)ケア(ケア)につい て「す(す)こ(こ)い(い)い(い)仕(し)事(じ)」 と強(きやう)調(てう)した。